

### 行仙宿小屋と管理棟の整備と浦向道架橋材の運搬

◇実施日；2019年9月16日（月・祭） 晴

◇参加者：沖崎吉信、児嶋道夫、豊島寛、上村洋司・和美、大江加代子、畑林清子、山川治雄、岩本信行、瀧本昭太郎、梶野照雄

（11名）

昨日の9月15日、川島前代表の四十九日法要がご家族の皆さんのみで行われ、我々は参列することがなかったので、本日現場で参加者一同で線香を供え、沖崎導師で般若心経を唱えて供養させて頂いた。



送電線工事内容の掲示



5 mの橋げたを運ぶ



### ◎浦向道架橋材を現場まで運搬

（運搬は沖崎、山川、岩本、豊島、瀧本の5名）

新橋の鋼材は、8月18日に梶野、上村夫妻の3名でモノレール終点まで全て荷揚げされていた。製作・施工を担当される植平さんには、10月上旬の工事をお願いしたので、天候もよく、心強い参加者の多いこの日に鋼材を現場まで運ぶことにした。

長さ5mの橋げたを山川、岩本、豊島、瀧本の4名が、エキスパンドメタルを貼った床板一枚を沖崎が背負子に縛ってスタートする。床板は一人でも背負える重さだが、縦横約1mの正方形なのでバランスが悪く枝に引っ掛かったり、倒木の下を通過する際に荷物がぶつかったりで、まっすぐに歩けるところは少なかった。足場の悪いところは細心の注意を払った。床板の運搬はちょうど10分で現場に着いた。

モノレール終点まで戻って2回目の運搬を始める。2回目は沖崎が5mの橋げたを、床板の運搬は豊嶋さんと交代した。

橋げたは28kgなので、4人で楽々運べるだろうと考えていたが、実際に運んでみるとなかなか大変だった。アツプダウンは小さいが、その都度重さが前に掛かったり、後ろに行ったり。小さなカーブも要注意だった。支えている右肩と右手に重量が食い込み、4〜5分も歩けば荷物を降ろして肩を休めなくてはならない。

一本運ぶのに25分近くかかったが、一時間半ほどで5m橋げた2本と床板3枚を現場まで運んだ。

### ◎仏師 浅村朋伸氏の来宿

昼食を終え午後の作業にかかろうとしたとき、ひよっこりと浅村さんが入ってきた。浅村さんへは、川島前代表急逝の数日後、死亡

のお知らせとその経緯を文書でお送りし、直後にお悔やみの電話を頂いていた。本日は、現場での慰霊のため、日帰りでわざわざお運びいただいたようだ。死亡時の状況や思い出話をさせて頂き、30分ほどで下山された。遠路、慰霊のため訪問いただき、感謝申し上げます。

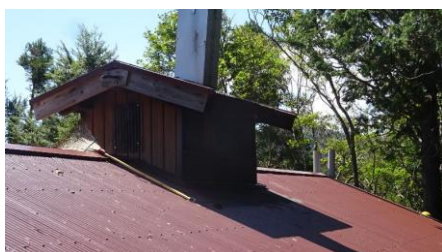
(記・沖崎)



送電線工事中



撤去前の板囲い



撤去後

8時45分、登山口に着くとモノレールが無い。送電線の工事が始まっていて、トラックなど4台ほどが林道奥に駐車していた。車から荷物を降ろしていると瀧本さんが到着、続いて上村車、9時少し前に沖崎車が到着して全員が揃った。

荷揚げのためモノレールを降ろしに行く。念の為スペアキーを沖崎さんから預かった。フーイー言いながら終点に着、モノレールにキーはついていなかった。スペアキーでエンジンを始動、登山口まで

降りて、荷物と上村さんを積んで終点に登った。

新橋の鋼材運搬を沖崎さんたちに任せて小屋に向かった。

第2ベンチの上で工事の作業責任者と出会い「日祝日にモノレールを使う際には、出来れば登山口に降りて頂きたい。終点に置く際にはキーを残すようにして欲しい旨を伝えた。

管理棟の整理は女性陣にお願いして、はしごを出して屋根に上る。排気塔々屋の東西に造られた板囲いを撤去する。児嶋さんも加わりハンマーとバールで壊していくが、錆びた五寸釘はなかなか抜けず、全部撤去できたのは12時過ぎだった。



浅村仏師が来宿



片付けられた管理棟の毛布



明り取りはポリカ波板で

午後からはポリカ波板を張る作業に取り掛かる。上はネジを打つ木があるが、下は空間だけでネジを打つところが無かった。撤去した板囲いの角材を児嶋さんが加工して取り付けて下さる。ポリカ波板が必要な長さを計っていなかったため、中央部は上下2枚に分かれ

での取り付けになってしまった。特に不都合はないようだが、将来的には一枚の物に交換する方が良いようにも思える。

板囲いの廃材は屋根から下に落として、瀧本さんや岩本さん達が釘を抜いて薪材に加工してくださった。

管理棟は毛布が元の位置に戻され、備蓄品は大幅に整理、賞味期限切れの食品などは廃棄のため持ち降ろすことになった。このため、雑多に積み上げられていた備蓄品は、大変すっきりと整理された。午後2時半、私と瀧本さんを残して全員下山。



本日の参加者

開口部を鋼板で塞ぐ

掃除機で床掃除

先日、上村さんがアルミ箔で応急的に塞いだ排気筒の開口部を、植平さんに頂いた薄板鋼板で本格的に塞ぐ作業に取り掛かる。

煙突を外して110mmに開けてきた穴に合わせてみるが、少し引つかかるので、3mmほど切って広げすっぽりと入るようになった。

排気筒は薄いので、タツピングビスで簡単にネジ止めが出来、アルミテープを隙間に巻いて工事完了。この後水場に降りるので、瀧本

さんに先に下山していただいた。煙突を外した際、大量の煤が床に落ちたので、掃除機を出して床全体を掃除した。



ホースを浸す

小さなゴミは流れていく 窓が開いているのに気付く

用意した直径25mmのビニールホースを持って水場に降りる。水場の底に溜まった小さなゴミをこのホースで吸い出す作戦だ。

3mmほどの小さなゴミや砂は確実に吸い取れるが、5mmを越えるものが大量に來るとホースの曲がった所で詰まり、水流がストップしてしまふ。この太さでは、吸い口を持つ人と、ホースの詰まりを解消する人の2名が必要になるようだ。今回はもつと太いホースで挑戦したいと思う。

小屋に戻ってストーブに火を入れてみる。すごく良くなった、と言う感じは無いが、外に出てみると煙突の煙は良く出ているので、調子はいいように思える。

荷物をまとめ下山を始める。歩きながら小屋の写真を撮っていると

お堂の窓が開いているのに気付いた。また小屋に引き返し荷物を降ろして、お堂、小屋、管理棟を見回った。開いていたのはお堂の窓一ヶ所だけだった。

(記；梶野)

### 行動タイム

09：05 登山口→09：40 モノレール終点→10：30 行仙宿→15：15 水場→16：20 行仙宿 16：44→17：32 登山口